

スイッチOTCの普及促進を指向した一般生活者に対する意識調査

所属機関及び調査研究者名

東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室 成井浩二

(所在地: 〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1 電話番号: 042-676-5825)

1. 調査研究背景・目的

一般生活者の健康に対する指向の高まりから、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」というセルフメディケーションの考え方¹⁾が注目されている。また、本格的な高齢社会を迎え、医療費および医療資源の効率的な使用の観点から、厚生労働省は2007年に策定した新医薬品産業ビジョン(2008年一部改訂)において、「セルフメディケーションの考え方を、さらに進める観点から、一般用医薬品の有効活用を進めていくことが重要である」と述べている²⁾。さらに、「特に、医療用医薬品からの転換による「スイッチOTC医薬品」や新規効果を持つOTC医薬品の開発の促進が進むことにより、従来、一般用医薬品に求められていた効果・効果を超え、国民が求める健康等新たな志向(例えばメタボリックシンドロームの予防、スキンケア効果など)に応えることができると考えられる」とし²⁾、スイッチOTC医薬品への転換や開発も期待されている。平成23年度の調査・研究助成では、一般生活者がスイッチOTC医薬品に対して持っている意識やニーズを調査した³⁾。その結果、一般生活者の74.0%がスイッチOTC医薬品の使用に対し意欲的であった。また、スイッチOTC医薬品の使用に対し意欲的であった一般生活者の49.7%が『肩こり・腰痛の飲み薬』、32.2%が『ものもらいの抗菌目薬』、30.2%が『片頭痛の飲み薬』、23.5%が『コレステロールを下げる飲み薬』、18.8%が『血圧を下げる飲み薬』をOTC医薬品にスイッチしてほしいと回答した。一方、『糖尿病の飲み薬』、『痛風の飲み薬』、『膀胱炎の飲み薬』はそれぞれ6.0%、7.4%、7.4%と先にあげた薬効群よりも割合が低かった。これらの割合は、スイッチOTC医薬品の使用に対し意欲的であった一般生活者における割合であり、上記の薬効群が対象としている疾患患者における割合ではない。そこで、平成24年度の調査・研究助成では現実的なニーズを調査するために、各疾患患者、特に高血圧症、糖尿病、脂質異常症のいずれか若しくは、これらのうち複数の疾患を持つ患者(生活習慣病患者群)におけるスイッチOTC医薬品へのニーズを調査した。

2. 調査研究方法

2-1. アンケート調査

アンケートは平成 25 年 2 月から 3 月の 15 日間、東京都内の調剤薬局にて実施した。調査員を局内の待合スペースに調査員を 2 名配置し、午前 10 時から午後 6 時まで、口頭によりアンケート調査への同意が得られた来局者にアンケート用紙を配布し、その場で回答していただいた。

2-2. アンケート内容の概要

アンケート用紙は白地の A4 版用紙 4 枚で、選択肢番号を丸で囲むか、自由記述によって回答を得た (図 1)。個人情報保護の観点から、アンケート回答者の背景は性別、年齢、職業の回答を求め、回答者個人が特定できないように配慮した。また、アンケートの集計結果は学術論文や関連業界誌などで公表されること、個人が特定されないことをアンケート用紙の冒頭に明記し、それに同意された方のみが調査に回答する形式とした。

2-3. アンケートの集計と有意差検定

有効回答者数を全体の標本数 (全体群) とした。また、アンケート回答者の背景や回答内容の情報をもとに、回答者を各群に分類した。各群間の差はカイ二乗 χ^2 検定にて検定し、危険率 (P) < 0.05 を有意差ありとした。

3. 調査研究結果

3-1. 全体群の背景

配布したアンケート用紙 199 枚のうち、回収できたのは 199 枚 (回収率 100.0%) であった。全ての回答用紙に何らかの回答があったため、有効回答を 199 (有効回答率 100.0%) とした。今回調査を実施した調剤薬局は、いわゆる門前薬局であり、本研究の回答者は同一の病院からの処方せんを持参してきた。回答者の性別は、男性 77 名 (38.7%)、女性 122 名 (61.3%) であった。年齢は、30 歳代 2 名 (1.0%)、40 歳代 14 名 (7.0%)、50 歳代 11 名 (5.5%)、60 歳代 42 名 (21.1%)、70 歳以上 125 名 (62.8%)、年齢不明 (無回答) 5 名 (2.5%) であった。職業は、会社員 22 名 (11.1%)、公務員 3 名 (1.5%)、自営業 19 名 (9.5%)、主婦 51 名 (25.6%)、無職 89 名 (44.7%)、その他 9 名 (4.5%)、職業不明 (無回答) 6 名 (3.0%) であった。

3-2. 生活習慣病患者群の背景

設問 A『本日処方せんで受け取られるお薬の疾患は何ですか?』に対し、128 名 (64.3%) が『高血圧症』、27 名 (13.6%) が『糖尿病』、54 名 (27.1%) が『脂質異常症』、76 名 (38.2%) が『その他』と回答した (図 2)。本研究は高血圧症、糖尿病、脂質異常症の

いずれか若しくは、これらのうち複数の疾患を持つ患者（生活習慣病患者群）におけるスイッチ OTC 医薬品のニーズを調査しているため、以後の結果は生活習慣病患者群における結果を示す。生活習慣病患者群は全体群 199 名のうち 160 名で、男性 63 名（39.4%）、女性 97 名（60.6%）であった。年齢は、30 歳代 1 名（0.6%）、40 歳代 8 名（5.0%）、50 歳代 8 名（5.0%）、60 歳代 32 名（20.0%）、70 歳以上 110 名（68.8%）、年齢不明（無回答）1 名（0.6%）であった。職業は、会社員 15 名（9.4%）、公務員 2 名（1.3%）、自営業 16 名（10.0%）、主婦 42 名（26.3%）、無職 75 名（46.9%）、その他 7 名（4.4%）、職業不明（無回答）3 名（1.9%）であった。

3-3. 通院頻度、通院期間、所要時間および費用

設問 B『定期的に通院していますか？』に対し、159 名（99.4%）が『はい』、1 名（0.6%）が『いいえ』と回答した。また、通院頻度は、『月 1 回』が 114 名（71.3%）で最も多かった（他：『月 4 回』3 名、『月 2 回』29 名、『二か月に 1 回』4 名、『その他』8 名、『回答なし』2 名）。

これまでの通院期間は（設問 C）、大多数の 150 名（93.8%）が『1 年以上』であった（他：『今回初めてまたは 1 週間未満』1 名、『1 週間～1 ヶ月』1 名、『1 か月～1 年』8 名）。

設問 D『家から病院までの所要時間と病院に来院してから薬を受け取るまでの所要時間はおよそどれくらいですか？』に対し、家から病院までの所要時間は 146 名（91.3%）が 30 分以内であった。また、家から病院までの所要時間と病院に来院してから薬を受け取るまでの所要時間の合計、つまり、家を出てから薬を受け取るまでの所要時間は、4 名（2.5%）が 1-30 分の間、27 名（16.9%）が 31-60 分の間、41 名（25.6%）が 61-90 分の間、37 名（23.1%）が 91-120 分の間、50 名（31.3%）が 121 分以上で（1 名は回答なし）、平均 98.0 分であった。また、設問 E『家を出てから薬を受け取るまでの理想の所要時間はどれくらいですか？』に対し、33 名（20.6%）が 1-30 分の間、84 名（52.5%）が 31-60 分の間、14 名（8.8%）が 61-90 分の間、11 名（6.9%）が 91-120 分の間、7 名（4.4%）が 121 分以上で（11 名は回答なし）、平均 61.5 分であった（**図 3**）。

設問 D と設問 E の差（ギャップ：設問 D - 設問 E）は、マイナスが 14 名（8.8%）、24 名（15.0%）が 0 分、39 名（24.4%）が 1-30 分の間、27 名（16.9%）が 31-60 分の間、24 名（15.0%）が 61-90 分の間、12 名（7.5%）が 91-120 分の間、9 名（5.6%）が 121 分以上で（11 名は回答なし）、平均 38.0 分であった（**図 4**）。

設問 F『本日の費用（診察代、お薬代）はおよそいくらですか？』に対し、診察代とお薬代の合計は 14 名（8.8%）が 0 円、13 名（8.1%）が 1-999 円の間、32 名（20.0%）が 1,000-1,999 円の間、30 名（18.8%）が 2,000-2,999 円の間、22 名（13.8%）が 3,000-3,999 円の間、12 名（7.5%）が 4,000-4,999 円の間、27 名（16.9%）が 5,000 円以上で（10 名は回答なし）、平均 3,140 円であった（**図 5**）。

3-4. スイッチ OTC 医薬品の認知度と使用に対する意欲

設問 G『近年、処方せんがないと購入できなかった医療用医薬品の一部が、処方せんがなくても薬剤師の説明のもとで薬局・ドラッグストアで購入できる医薬品（スイッチ OTC 医薬品）が増加しました。このようなスイッチ OTC 医薬品を御存知でしたか？』に対し、大多数の 142 名（88.8%）が『全く知らなかった』と回答した（他：『よく知っていた』2 名、『少し知っていた』13 名、3 名は回答なし）。設問 G で『よく知っていた』または『少し知っていた』と回答した 15 名の設問 H『スイッチ OTC 医薬品はどこで知りましたか？』に対する回答は、『テレビ』が 9 名（60.0%）で最も多く、『新聞』が 4 名（26.7%）、『インターネット』が 2 名（13.3%）の順であった。

設問 G で『スイッチ OTC 医薬品を使用したいと思いますか？』とスイッチ OTC 医薬品使用に対する意欲を尋ねたところ、35 名（21.9%）が『積極的に使用したい』、23 名（14.4%）が『どちらかという上使用したい』、18 名（11.3%）が『どちらかという上使用したくない』、80 名（50.0%）が『使用したくない』と回答した（図 6）。設問 I で『積極的に使用したい』または『どちらかという上使用したい』と回答した 58 名に設問 J で使用したい理由を、設問 I で『どちらかという上使用したくない』または『使用したくない』と回答した 98 名に設問 K で使用したくない理由を尋ねた。その結果、使用したい理由は『病院にかかるより手軽だから（待ち時間がない）』が 40 名（69.0%）で最も多く、『毎回同じ薬をもらっているから』が 17 名（29.3%）で次いだ。その他 10 名（17.2%）の意見は「病院まで距離が遠いので行かなくて済むから」といった意見が多かった。使用したくない理由は『病院で診察をしてもらいたいから』が 78 名（78.8%）で最も多かった。その他 31 名（31.3%）の意見は「今まで通りの流れを変えるのがめんどくさい」や「いつ辞めればいいのか分からない」、「自分で判断するのは怖いから」といった意見が多かった。

3-5. スイッチ OTC 医薬品の価格と変更意欲

設問 L『ある医療用医薬品がスイッチ OTC 医薬品になった場合、購入価格はどの程度が適正な価格と考えられますか。医療用医薬品のためにかかった費用（診察代+お薬代）がかりに 2,000 円であった場合、同一の医薬品をスイッチ OTC 医薬品として購入するとしたら、どのくらいの値段であれば購入したいですか？具体的な金額をお書きください。』に対して、55 名（34.4%）の回答がなく、46 名（28.8%）が値段の記入がない理由のみの回答であった。具体的な値段は 1,000-1,499 円の回答者が 23 名（14.4%）で最も多く、次いで、2,000 円が 19 名（11.9%）、1,500-1,999 円の回答者が 12 名（7.5%）の順で、希望購入平均価格は 1,480 円であった。値段の記入がなく、理由のみの回答では「とにかく安く」や「安ければいい」など低価格を求める意見が多かった。

設問 M『現在使用している薬のスイッチ OTC 医薬品ができた際、スイッチ OTC 医薬品に変更しますか？』に対して、38 名（23.8%）が『変更したい・変更する』、119 名（74.4%）

が『変更したくない・変更しない』と回答した（回答なしは3名）（図7）。

疾患別のスイッチOTC医薬品への変更意欲は、高血圧症128名では22.7%（男性：35.4%、女性：15.0%）、糖尿病27名では25.9%（男性：33.3%、女性：11.1%）、脂質異常症54名では29.6%（男性：47.6%、女性：15.5%）が現在使用している薬のスイッチOTC医薬品ができた際、スイッチOTC医薬品に変更したいと回答していた。

ギャップ（設問Dと設問Eの差：図4）がマイナスと0の群（マイナス+0群）38名とプラスの群（プラス群）111名の間では、プラス群はマイナス+0群よりも有意に多くの回答者が現在使用している薬のスイッチOTC医薬品ができた際、スイッチOTC医薬品に変更したいと回答していた。（プラス群：26.1%、マイナス+0群：10.5%、 $P<0.05$ ）（図8）。

3-6. 自由意見

設問M『OTC医薬品について思っていること、薬局・薬店について思っていること、薬や健康について知らせてほしいことや知りたいことなどをご自由にお書きください。』に対して、27名（16.9%）が意見を記述した。その内容は大部分が設問M『現在使用している薬のスイッチOTC医薬品ができた際、スイッチOTC医薬品に変更しますか？』に関連する内容であった。

4. 考察

アンケートの回収率、有効回答率がともに100.0%と高かったのは、調剤の待ち時間に回答していただいたことや、調査員を配置し、対面式で回答いただいたことが寄与したと考えられた。本研究の生活習慣病患者群の70歳以上が占める割合は66.8%であったが、厚生労働省の平成20年（2008）患者調査の概況では、70歳以上の高血圧症、糖尿病、脂質異常症の傷病者は1646.1千人、742.9千人、759.2千人であり、70歳以上が占める割合は62.6%、55.1%、52.9%である⁴⁾ことを考慮すると、妥当な割合であり、目的を満足し得るサンプリングが行うことができたと考えられる。

スイッチOTC医薬品は9.4%（設問Gの『よく知っていた』、『少し知っていた』の合計）の回答者に認知されていた。これは昨年調査における認知率56.5%と大きな隔たりがあった³⁾。昨年の調査は一般生活者を対象とした調査であり、年代によってその認知率に差が認められた（39歳以下52.0%、40代55.4%、50代68.6%、60歳以上40.9%）。一方、今回の調査は生活習慣病患者を対象としており、前述のとおり、生活習慣病患者の年齢層が高い（今回の回答者の60歳以上の占める割合は88.8%）ことを考慮すると、前回と今回の認知率の違いは調査対象群の構成年齢の違いに起因したと考えられた。

昨年度調査では18.8%が『血圧を下げる飲み薬』、6.0%が『糖尿病の飲み薬』23.5%が『コレステロールを下げる飲み薬』をOTC医薬品にスイッチしてほしいと回答した³⁾。

今回の疾患別のスイッチ OTC 医薬品への変更意欲は、高血圧症 128 名では 22.7% (男性：35.4%、女性：15.0%)、糖尿病 27 名では 25.9% (男性：33.3%、女性：11.1%)、脂質異常症 54 名では 29.6% (男性：47.6%、女性：15.5%) が現在使用している薬のスイッチ OTC 医薬品ができた際、スイッチ OTC 医薬品に変更したいと回答していた。今回の調査は各疾患患者に対するアンケート調査であるため、昨年度の調査よりもより現実的なスイッチ OTC 医薬品への変更意欲を示すことができたと考えられた。また、男性の方がスイッチ OTC 医薬品への変更に対する指向性が高かった。

家を出てから薬を受け取るまでの現実の所要時間の平均 (98.0 分) と理想の所要時間 (61.5 分) に大きな隔たりがあった。この隔たりは、調査薬局は調査時に調剤に 15 分以上要していることはなく、91.3%が家から病院までの所要時間が 30 分以内であることから、病院での待ち時間が多いことに起因していた。現実の所要時間とスイッチ OTC 医薬品への変更意欲について解析してみると、現実の所要時間の長さでスイッチ OTC 医薬品への変更意欲について有意な差は認められなかった。一方、ギャッププラスの群とギャップマイナス+0 群では、プラス群はマイナス+0 群よりも有意に多くの回答者が現在使用している薬のスイッチ OTC 医薬品ができた際、スイッチ OTC 医薬品に変更したいと回答していた。スイッチ OTC 医薬品の特徴の一つに、薬を受け取るまでの所要時間の短縮がある。ギャッププラスの群は所要時間の短縮を望む群であるため、スイッチ OTC 医薬品への変更を選択したと考えられた。

医療用医薬品が OTC 医薬品にスイッチされた場合の希望購入平均価格は 1,480 円で自己負担額の 74.0% であることが明らかになった。昨年度の調査では 1,295 円 (自己負担額の 64.8%) であり、大きな隔たりはなかった。これらは、OTC 医薬品の価格との比較ができる情報を与えなかったことや医療用医薬品を得るための自己負担額が 2,000 円という設定が妥当かどうか疑問が生ずる可能性があるが、医療用医薬品を得るための医療機関受診時の自己負担額よりも安くしてほしいという志向性が理解できた。「OTC 医薬品の価格がコストコンシャス (値ごろ感) なものになることは、OTC 医薬品普及の大きな要素である。特に今後市場に登場するスイッチ OTC 医薬品の必要条件である。」と言われおり⁵⁾、本研究はスイッチ OTC 医薬品の価格を考える上で、有用なデータを示すことが出来たと考えられる。

5. まとめ

一般用医薬品は薬事法第二十五条に「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が著しくないものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの」と定義されている⁵⁾。そのため、薬剤師その他の医薬関係者は需要者の適正使用をサポートする上で重要な役割を担うことが期待されている。

本研究ではより実質的なスイッチ OTC 医薬品へのニーズを調査するために高血圧症、

糖尿病、脂質異常症の患者に対してスイッチ OTC 医薬品へのニーズを調査した。その結果、各疾患ともに 20-30%程度のニーズがあった。しかし、これらの疾患に対する薬効群の中には各専門学会からスイッチに対して消極的な意見が出されており、その消極的な主な理由は安全性が確保できないことがあげられる⁶⁾。一般生活者のこれらのようなニーズを満たすためには、安全性の確保ができる体制作りや、薬剤師その他の医薬関係者の知識とサポートの向上が必要である。

6. 調査研究発表

学術論文として投稿中である。

7. 引用文献

- 1) WHO. Guidelines for the regulatory assessment of medicinal products for use in self-medication. WHO Drug Information 14, 18-26, 2000.
- 2) 厚生労働省. 新医薬品産業ビジョン. 2007. 8. 20. (2008. 9. 9 一部改訂).
- 3) 成井浩二. スイッチ OTC の普及促進を指向した一般生活者に対する意識調査. 平成 23 年度 一般用医薬品セルフメディケーション 調査研究・啓発事業等 報告書 (NO. 6) 公益財団法人 一般用医薬品セルフメディケーション振興財団. 194-207, 2012.
- 4) 厚生労働省. 平成 20 (2008) 患者調査の概況. 2009. 12. 3.
- 5) 厚生労働省. 薬事法. 2006. 6.
- 6) 望月 眞弓. スイッチ OTC の現状と今後の展望. 日本薬剤師会雑誌 63(1): 69-72, 2011.

8. 共同研究者

慶應義塾大学 薬学部 医薬品情報学講座 望月 眞弓

東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室 渡辺 謹三

図・表

このアンケートはセルフメディケーション(自己管理治療)の推進や一般医薬品(OTC医薬品)の普及のために実施しています。アンケートの集計結果は学術論文や関連業界誌などで公表されますが、取りまとめて統計的に処理されますので個人が特定されることはありません。安心してご回答ください。
東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室

A 本日処方せんで受け取られるお薬の疾患は何ですか？(複数回答可)

1. 高血圧症(血圧が高い)
2. 糖尿病(血糖値が高い)
3. 脂質異常症(血中コレステロール値が高い)
4. その他()

B 定期的に通院していますか？通院している場合は頻度もお答えください。

1. はい ()
2. いいえ

C これまでの通院期間をお答えください。

1. 今回初めてまたは1週間未満
2. 1週間~1ヶ月
3. 1ヶ月~1年
4. 1年以上 (年)

D 家から病院までの所要時間と病院に来院してから薬を受け取るまでの所要時間はおよそどれくらいですか？

◇家から病院まで

時間 分

◇病院に来院してから薬を受け取るまで

時間 分

E 家を出てから薬を受け取るまでの理想の所要時間はどれくらいですか？

時間 分

★★次のページの質問にもお答えください★★

F 本日の費用(診察代、お薬代)はおよそいくらですか？

高血圧症	診察代: _____ 円	お薬代: _____ 円
糖尿病	診察代: _____ 円	お薬代: _____ 円
脂質代謝異常症	診察代: _____ 円	お薬代: _____ 円
その他	診察代: _____ 円	お薬代: _____ 円

G 近年、処方せんがないと購入できなかった医療用医薬品の一部が、処方せんがなくても薬剤師の説明のもとで薬局・ドラッグストアで購入できる医薬品(スイッチ OTC 医薬品)が増加しました。このようなスイッチ OTC 医薬品を御存知でしたか？

1. よく知っていた
2. 少し知っていた
3. 全く知らなかった → I へ

H スイッチ OTC 医薬品はどこで知りましたか？(複数回答可)

1. 新聞
2. インターネット
3. テレビ
4. 病院
5. 調剤薬局
6. ドラッグストア
7. 友人・家族
8. その他()

I スイッチ OTC 医薬品を使用したいと思いませんか？

1. 積極的に使用したい
2. どちらかというと使用したい
3. どちらかというと使用したくない
4. 使用したくない

→ 次のページへ

J Iで「1. 積極的に使用したい」, 「2. どちらかというと使用したい」とお答えになった方へその理由は何か？(当てはまるものすべてに○をつけて下さい)

1. 効き目が強いから・強そうだから
2. 効き目が穏やかで副作用がなさそうだから
3. 価格が安いから
4. 薬剤師の説明を聞いて購入できるから
5. 病院にかかるより手軽だから(待ち時間がない)
6. 新しい医薬品を使用してみたいから
7. 病院での処方案から OTC 医薬品に切り替えたいから
8. 毎回同じ薬をもらっているから
9. その他()

★★次のページの質問にもお答えください★★

K Iで「3. 使用したくない」, 「4. どちらかというと使用したくない」とお答えになった方へその理由は何か？(当てはまるものすべてに○をつけて下さい)

1. 効き目が強いから・強そうだから
2. 効き目が弱いから・弱そうだから
3. 価格が高いから
4. 副作用が心配だから
5. 説明を聞くのが面倒だから
6. 近くにスイッチOTC医薬品を扱っている薬局・薬店がないから
7. 病院で診察してもらいたいから
8. その他()

L ある医療用医薬品がスイッチ OTC 医薬品になった場合、購入価格はどの程度が適正な価格と考えられますか。

医療用医薬品のためにかかった費用(診察代+お薬代)がかりに2,000円であった場合、同一の医薬品をスイッチ OTC 医薬品として購入するとしたら、どのくらいの価格であれば購入したいですか？具体的な金額をお書きください。

【医療用医薬品(診察代+お薬代) : 2,000円】

スイッチ OTC 医薬品(診察代不要) _____ 円

上記の金額にした理由をご記入ください。

M 現在使用している薬のスイッチOTC医薬品ができた際、スイッチOTC医薬品に変更しますか？

1. 変更したい・変更する
2. 変更したくない・変更しない

N OTC医薬品について思っていること、薬局・薬店について思っていること、薬や健康について知らせてほしいことや知りたいことなどを自由に書きください。

★★次のページの質問にもお答えください★★

★★★あなたについてお聞かせください★★★

◀性別▶ 1. 男性 2. 女性

◀年齢▶ 1. 20歳未満 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代

◀職業▶ 1. 会社員 2. 公務員 3. 自営業 4. 主婦
5. 学生 6. フリーター 7. 無職 8. 1~7以外

最後に、本日受け取るお薬は何日分ですか？ (_____ 日分)

ご協力ありがとうございました！

図 1. アンケート用紙

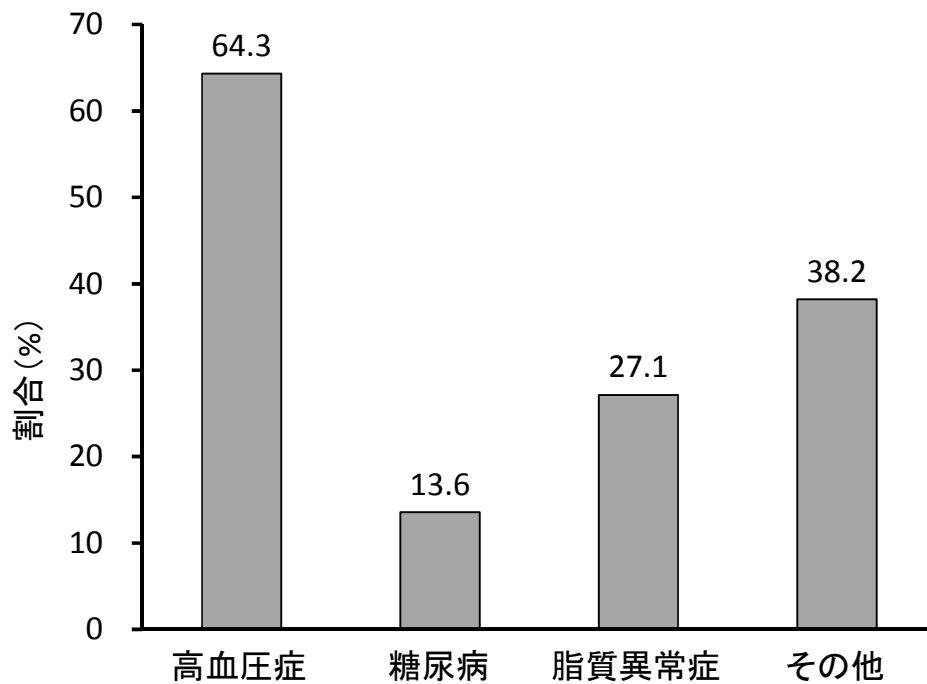


図 2. 調査薬局における調剤希望薬剤の対象疾患 (%)

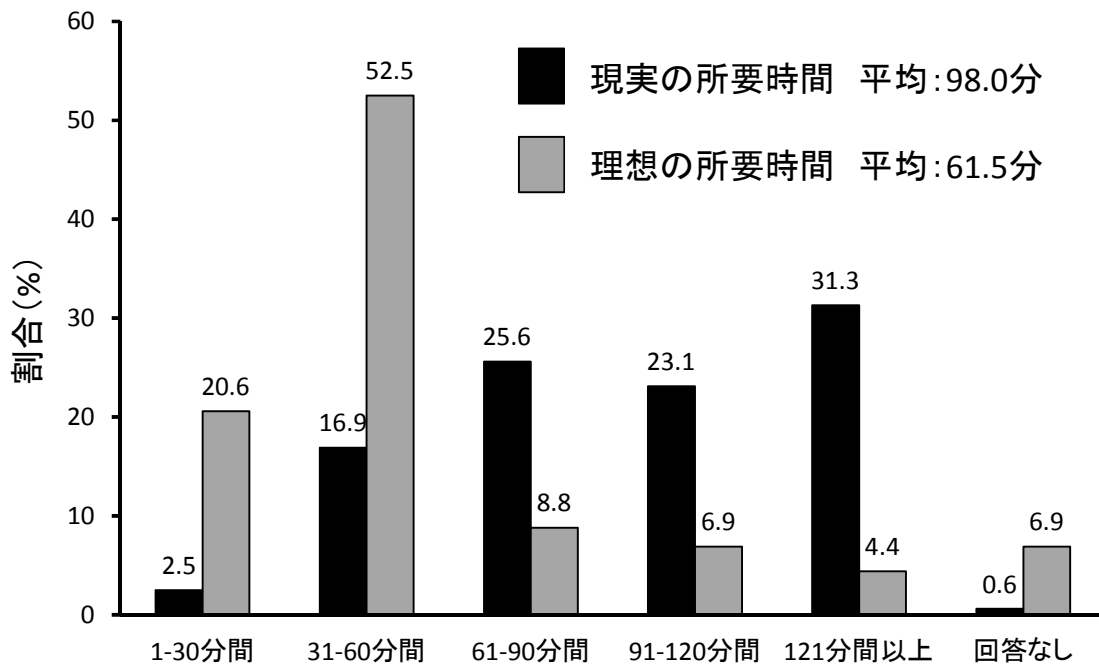


図 3. 家を出てから薬を受け取るまでの所要時間

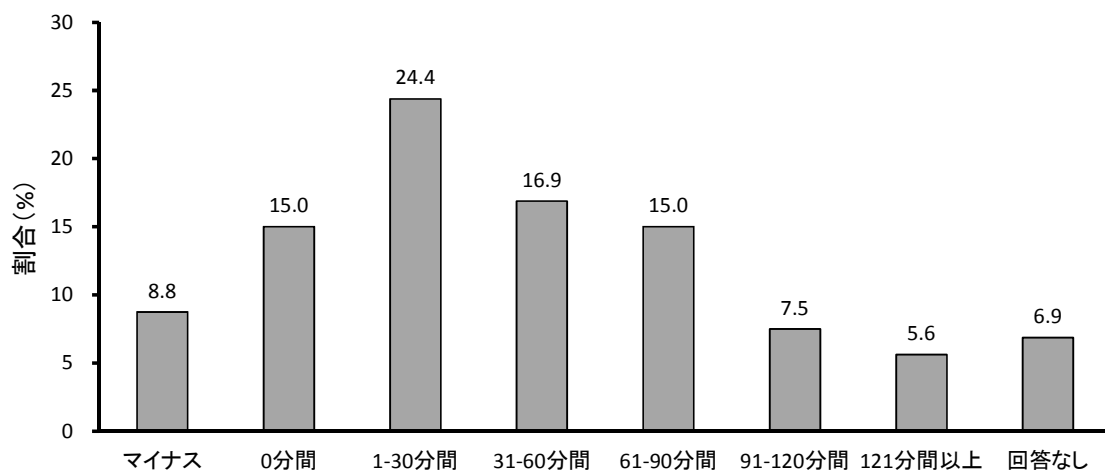


図 4. 現実の所要時間と理想の所要時間の差 (ギャップ)

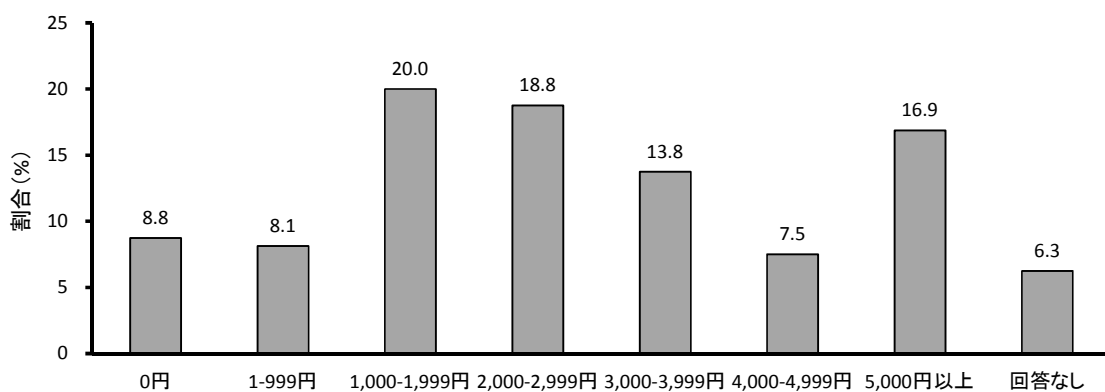


図 5. 本日の費用 (診察代 + お薬代)

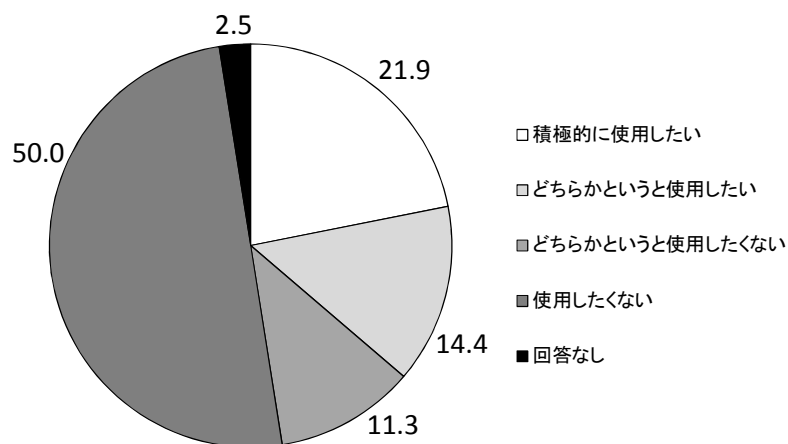


図 6. スイッチ OTC 医薬品使用に対する意欲 (%)

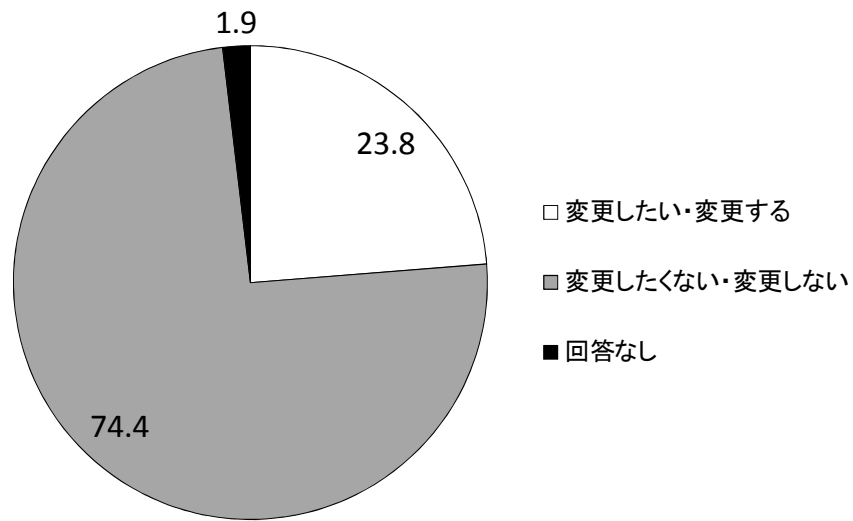


図7. 現在使用しているお薬のスイッチ OTC 医薬品への変更意欲 (%)

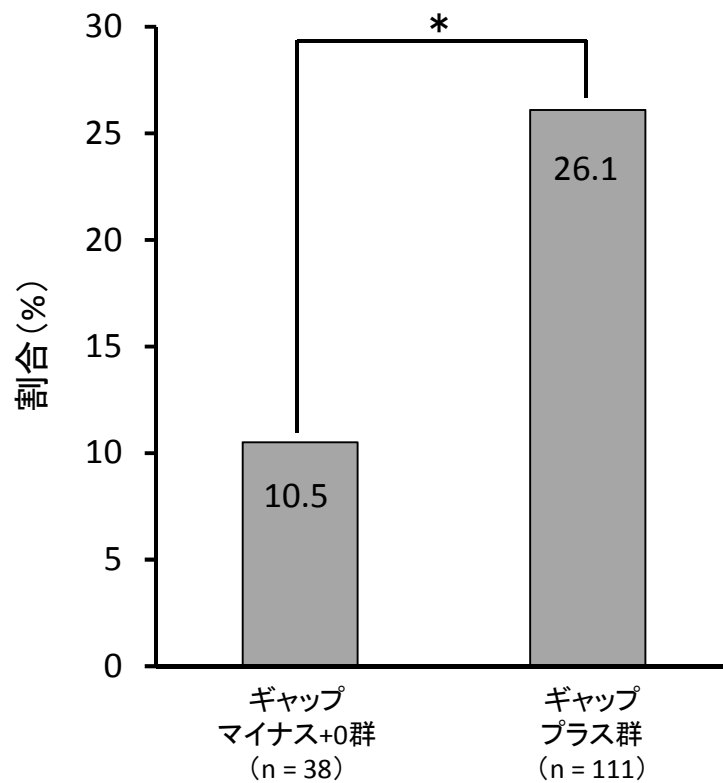


図8. 家を出てから薬を受け取るまでの現実の所要時間と理想の所要時間の差 (ギャップ) におけるスイッチ OTC 医薬品への変更希望者の割合

* $P < 0.05$ (χ^2 検定)